

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2~3面 新春対談/女性ニュース
- 4~5面 新婦人のページ/読者の作品
- 6面 憲法改悪許さない/母の歴史
- 7面 脱炭素で未来を
- 8面 核兵器廃絶へ/まんが
- 9面 インタビュー
- 10面 パズル/いっしょにあそぼ!
- 11面 冬の映画



京都・長岡京市 黒田琴子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

2022年 新春



持続可能な世界を

いま 気候正義!



抜本的な温暖化対策を求めデモ行進する若者ら (2021年11月5日、イギリス・グラスゴー)

私たちは、この先も地球上に生存し続けることができるのか——気候危機によって、大きな岐路に立たされています。地球の大气と海洋の気温上昇が、洪水や竜巻、熱波や寒波という極端気象の頻発や巨大化を招き、海面上昇で沈む国土など、世界中に甚大な被害をもたらしています。とりわけ、途上国や貧困層、将来世代の人々の生命や健康、食や住居、生業などあたりまえの日常を脅かし、奪う不公平に対し、「いまこそ気候正義を」の声と運動が巻き起こっています。

産業革命前からの気温上昇を1.5℃に抑えるために、2030年までの温室効果ガス削減目標を引き上げ、各国政府と国際社会がただちに本気の対策をとることが迫られています(7面)。

新婦人は気候危機打開を求める国への署名にとりくみ、行政や企業にも声を届けています。環境破壊の大規模化ではなく、家族農業中心にと国連が提唱するなか、新婦人は農民連との産直運動に力を入れています。再生可能エネルギーへの転換が急がれ、私たちの生活基盤である電気を生み出す「市民・地域共同発電所」が、全国で1000基を超えて広がっています。

持続可能な世界のために、どんな社会に生きてゆくのかわ、どんな未来にしたいのか——だれ一人ひとりのこさないSDGs(持続可能な開発目標)も、達成まであと8年。気候正義、ジェンダー平等、平和と公正な社会を一体のものとして追求していくときです。

親子での田植えや稲刈りなど、オンラインも使った産地との交流が各地でとくまれている(写真は新婦人茨城県本部の稲刈り交流会)



福島県農民連のソーラーシェアリング(営農型太陽光発電・写真)。県内にある市民・地域共同発電所は126基で、全国のなかでも多い。「原発の電気は使いたくない」との思い、「2040年頃には県内エネルギー需要の100%相当量を再生可能エネルギーで」と目標を掲げる県の姿勢がある(7面へ)



第30回全国大会議案(別刷り1~4)

本号は1月8日号との合併号です。通常号は15日号からです。

